

[成果情報名] 初生子豚の歯切り管理を行わなくても生産性を維持できる

[要約] 初生子豚の歯切りを行わなくても、離乳体重、出荷日齢、出荷体重等の発育及び繁殖母豚の発情回帰日数、授乳行動への影響はみられず、歯切りをした場合と変わらない生産性が維持できる。

[キーワード] アニマルウェルフェア、初生子豚、歯切り

[担当] 三重畜研・中小家畜研究課

[代表連絡先] 電話 0598-42-2029 E-mail : masakk01@pref.mie.lg.jp

[区分] 関東東海北陸農業・畜産草地（中小家畜）

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

日本では家畜にとってのアニマルウェルフェアを「快適性に配慮した家畜の飼養管理」と位置づけ、養豚では『豚の飼養管理に関する技術的な指針』が示されている。生産者がこの指針に沿った生産飼養方法の改善を導入するために、設備や機器、資材等の導入を伴う場合には、調達コストやそれらの生産物への転嫁が必要になる等、更なる議論や研究が必要とされている。

本研究では指針において、新生子豚の管理として挙げられる歯切りについて、可能な限り苦痛を生じさせない方法で早期に行うことを推奨しており、歯切りを行わない例もあることから、歯切り実施の有無による子豚の成長に与える影響を調査する。

[成果の内容・特徴]

1. 初生子豚の歯の先端をニッパで切除する切除群、切除しない無切除群とする。調査項目は子豚の離乳体重、出荷体重、出荷日齢等の発育成績および顔等の傷の状況、母豚の発情回帰日数および授乳状況とする。
2. 新生時（出生当日又は翌日）の歯切りの有無による子豚の発育成績に差は認められない（表1）。
3. 離乳後、傷跡の有無について観察を行い、傷の程度により4段階にスコア化する（0：傷なし、1：顔の1割未満、2：顔の1割以上3割未満、3：顔の3割以上）。観察により顔に傷跡のある個体は計12頭であり、そのうち無切除の2頭について顔の1割以上に傷跡を認めた（表2）。
4. 母豚の平均発情回帰日数は切除群で5.0日、無切除群で5.6日であり、差は認められない（表3）。
5. 母豚の授乳を拒否する行動や乳房への傷はみられない。

[成果の参考情報]

1. 歯切り管理を実施しなくても生産性の維持が見込まれるが、子豚の傷口からの細菌感染等の事例も聞かれるため、日々の観察及び農場の衛生環境に注意する。

[具体的データ]

表1 子豚の発育成績

	離乳体重 (kg)	出荷体重 (kg)	出荷日齢 (日)
切除群(n=8)	6.1±1.1	109.0±2.6	156.1±3.6
無切除群(n=8)	6.1±0.6	109.8±2.7	156.7±5.1
p値	0.93	0.64	0.84

※平均値±標準偏差

表2 子豚の顔の傷スコアデータ

	傷スコア			
	0	1	2	3
切除群(n=94)	89	5	0	0
無切除群(n=92)	85	5	1	1

※0: 傷なし、1: 顔の1割未満、
2: 顔の1割以上3割未満、3: 顔の3割以上

表3 母豚の発情回帰日数

	発情回帰日数 (日)
切除群(n=8)	5.0±0.9
無切除群(n=8)	5.6±2.8
p値	0.59

※平均値±標準偏差

(正木杏佳)

[その他]

予算区分： 県単

研究期間：2021～2023 年度

研究担当者：正木杏佳、市川隆久、岩田裕光

発表論文等：なし